

世界トップレベル研究拠点(WPI) プログラムの将来構想の検討に あたっての論点

研究振興局 基礎研究振興課

WPIプログラム委員会の結論(要約)

1. WPIプログラムの継続について

- 平成19年度採択拠点は、“World Premier Institute”を達成。
- WPIプログラムは、ミッションと支援スキームを再設定し、継続すべき。
- WPIプログラムは、拠点の“代謝”により、さらに推進すべき。
- 平成29年度に新規拠点公募を行う。

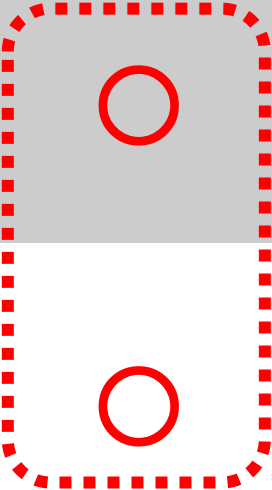
2. 補助金支援期間終了拠点への支援

- ホスト機関長は、自助努力によって、各WPI拠点を維持することを約束。
- WPI拠点が達成した卓越性に鑑み、補助金支援期間終了拠点に対し、何らかの支援スキームを整備し、WPIブランドを維持。
- WPI基準を満たした拠点によって構成される“WPI Academy”または“WPI Association”システムの立ち上げ。
- “WPI Academy”及び“WPI Association”システムは、定期的（例えば3年毎）にWPI基準に沿った活動状況の評価を受ける。

WPIプログラムのこれまでの成果とこれからの課題

	これまでの成果	現状の課題・検討すべき論点	目指す方向
プログラム全体	<ul style="list-style-type: none"> ○WPIプログラムは「成功」 ○PD・PO等による進捗管理 ○プログラム委員会による拠点評価 ○組織作りへの支援の有効性 	<ul style="list-style-type: none"> ○プログラム終了時の制度設計の不備(含支援の延長) ○ミッションの見直し(優先順位、学生の受け入れ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援終了後の拠点の機能維持の観点から、WPIプログラムの再定義 ○新規拠点公募によるプログラムの継続
世界最高レベルの研究水準	<ul style="list-style-type: none"> ○極めて優れている ○新しい財源獲得の試み(産学連携、寄付等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価活動に伴う負担 ○客観的評価体制の整備が不十分 ○兼任のPIが多く、成果が不明瞭 ○短期的に成果が出やすいテーマ 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価体制・基準の見直し
研究組織の改革	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい制度のモデルケース(例:クロスアポイントメント制度、トップダウンの運営) 	<ul style="list-style-type: none"> ○組織全体への取組の拡大が進まない 	<ul style="list-style-type: none"> ○関連事業と連携し、プログラムの枠を超えた研究組織の改革
国際的な研究環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○英語対応できる事務職員等革新的な運営環境を実現 ○若手研究者の育成に大きく貢献(特に異分野融合や自律的研究環境の実現) ○国際共同研究の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な事務職員の慢性的な不足 ○研究環境の整備の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際化に対応した事務職員の育成を含む国際機能維持の仕組み ○海外の研究組織との連携の推進
融合領域の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○分野融合的な研究が進展 	<ul style="list-style-type: none"> ○分野融合の自己目的化 ○人文・社会科学の基礎研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○分野融合の扱い ○人文・社会系の研究

WPIの4つのミッションと国の支援のあり方

	ミッション	具体的な内容	拠点及びホスト機関	国の役割
①	世界最高レベルの研究水準	<ul style="list-style-type: none"> ○研究者の集積 ○トップレベルの研究成果 ○外部資金の獲得 	◎	競争的資金
②	新しい研究領域の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい領域の開拓 ○PIから独立した若手研究者 	◎	競争的資金
③	組織改革の先導	<ul style="list-style-type: none"> ○システム改革の先導役 ○組織内人事交流のハブ ○テクニカルスタッフの配置 ○研究マネジメント人材 ○大学院生の研究活動参画 	○	
④	国際的な研究環境	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人研究者が30%以上（海外からのリクルート） ○英語使用が標準の拠点 ○海外の研究組織との連携 ○共通機器の集積 ○国際的なアウトリーチ活動 	○	

世界に「目に見える」**拠点の組織としての基盤**であって
安定的・持続的なものとして整備・維持されるべき条件。

国のシステム
 改革との連動